

CONTENTS

「IT ベンチャーとの共生」

～農業・医業分野のシステム化と今後の展望～

目次

1. 自己紹介	4
Slide 2 Agenda	4
Slide 3 本日の講演を通じて伝えたいこと	6
Slide 4 About me	6
2. IT ベンチャーを立ち上げる	8
Slide 6 About Southern Wish Inc.	8
Slide 7 SW 社設立に至るまで	10
Slide 8 3 社の実情	10
Slide 9 ベンチャー設立のメリット	12
Slide 10 トップ同士の人脈	12
Slide 12 SW を通じたビジネスモデル	14
3. 世界を見据えたビジョン	16
Slide 14 SW の担う役割	16
Slide 15 データは通貨となる	18
Slide 16 世界を見据えたビジョン	18
Slide 17 Ex. 世界の果てまでネタ探し	20
4. 鹿銀が誇る農業法人	20
Slide 19 農業法人 春一番	22
Slide 20 農業法人設立の背景	22
Slide 21 農業法人設立の背景	24
Slide 22 農業 ICT を目指して～ SW ×春一番～	24
Slide 23 Farmlogs	26
Slide 24 データ収集に向けて (3,500㎡ /3.5 反の玉ねぎ畑)	26
Slide 25 データ収集に向けて (3,500㎡ /3.5 反の玉ねぎ畑)	28

Slide 26	データ収集に向けて (40,000㎡ /4 町歩のオリーブ樹)	28
～ breaktime ① シリコンバレー紀行～		
Slide 28	3社から集まったメンバー	30
Slide 29	GE Digital	32
Slide 30	Google	32
Slide 31	Google Self-Driving Car	34
Slide 32	Google Self-Driving Car	34
Slide 33	Uber	36
Slide 34	Other Company	36
5. クローリング技術の活用		
Slide 36	About Southern Wish Product	38
Slide 37	What is Trovo?	40
6. Trovo-Medical が生む効果		
Slide 39	What is Trovo-medical?	42
Slide 40	What is Trovo-medical?	42
Slide 41	Trovo-medical を組成する情報	44
Slide 42	ユーザーの目的・利用効果	44
Slide 43	Trovo-medical 開発背景	46
Slide 44	(参考) 地域特性を活かした医療介護事業の振興に向けて	46
Slide 45	業界を跨いだ情報共有	48
Slide 46	特徴と利用の効果	48
Slide 47	医療機関・介護施設・薬局の連携	50
Slide 48	二次医療圏分析・人口統計	50
Slide 49	各施設の情報・地図機能	52
Slide 50	連携機能	52
Slide 51	地域医療連携推進法人と地域包括ケア	54
Slide 52	主なユーザー	54
Slide 53	Trovo-medical が生む副次的効果	56

7. 動産担保を可能にした AgriPro	56
Slide 55 畜産業を取り巻く環境と課題	58
Slide 56 AgriPro の目的	58
Slide 57 肥育業者と金融機関の抱えるギャップ	60
Slide 58 AgriPro で解決	60
Slide 59 AgriPro 特徴	62
Slide 60 クラウドサービスにおけるネットワーク接続	62
Slide 61 AgriPro デモ	64
8. AI を駆使した新製品	66
Slide 63 データは通貨となる	66
Slide 64 私たちの新たな取り組み	68
Slide 65 What is MeeCap?	68
Slide 66 MeeCap for IOT	68
Slide 67 MeeCap's AI	70
Slide 68 MeeCap	70
Slide 69 How to HP Operation	72
Slide 70 How to Excel Operation	72
Slide 71 How to app Operation	74
Slide 72 How to IOT Operation	74
Slide 73 Use Case	76
Slide 74 Our Vision	76
Slide 75 Trovo + MeeCap World	78
Slide 76 MeeCap Website Open/ Feb.2017 ~	78
9. 今後の環境変化と覚悟	80
Slide 78 予見される環境変化	80
Slide 79 金融×ベンチャーとの融合	82
◆ 質疑応答	84

皆さまこんにちは。鹿児島銀行の松下と申します。

本日は、この高いところから偉そうなことを申し上げるような感じになってしまっはなはだ恐縮しておりますが、私どもの取り組みということを全般的にいろいろお伝えして、何か得ていただくものがあればと考えております。

では、早速講演に入らせていただきたいと思います。

1. 自己紹介

Slide 2 Agenda

今日の内容ですが、まず自己紹介の後、鹿児島銀行と野村総研がベンチャーを立ち上げまして、それに関するお話からさせていただきたいと思っております。そのベンチャーのビジョン、および、鹿児島銀行が去年10月に農業法人を立ち上げましたので、それに関するお話を含めたうえで、「サザンウィッシュ」という会社、このベンチャーがつくっている商品等をご紹介させていただきながら、銀行との取り組みについていろいろとご説明させていただきたいと考えております。

ITベンチャーとの共生

～農業・医業分野のシステム化と今後の展望～

鹿児島銀行 医業支援部

松下 真喜子

✉ m-yabuya@southernwish.com

Slide 2

Agenda

1. 自己紹介
2. ITベンチャーを立ち上げる
3. 世界を見据えたビジョン
4. 鹿銀が誇る農業法人
～ breaktime① シリコンバレー紀行 ～
5. クローリング技術の活用
6. Trovo-medicalが生む効果
7. 動産担保を可能にしたAgriPro
～ breaktime② 休憩 ～
8. AIを駆使した新製品
9. 今後の環境変化と覚悟

Slide 3 本日の講演を通じて伝えたいこと

今日の講演を通じてお話ししたいことがいくつかあります。鹿児島銀行はいわゆる地銀、第一地銀ですけれども、地銀の概念にとらわれないベンチャーイジムな実践をいろいろとやっております。そういった取り組み、および新技術を活用した取り組みなどについてご紹介をさせていただきたいと同時に、いろいろな環境変化というものを皆さんも肌を感じていらっしゃると思いますが、そこにどう私たちが今後どう取り組んでいくのか、そして今後取り組んでいけないといけないのかということをお伝えしたいと思っております。

ほんとうに不相応にも偉そうなことを申し上げると思いますが、皆さんの普段のお仕事のなかで、何か発見や気づきになればいいなというふうに考えております。ぜひお手柔らかに、よろしく願いいたします。

Slide 4 About me

まず自己紹介でございます。

入行 11 年目で、そのあたりでだいたい年齢がばれるようなものですが、来年で 12 年めになります。

経歴として、入行後 2 ヶ所の支店に赴任しました。内部業務および個人営業等をいたしまして、平成 24 年に本部部署である営業支援部にいきました。そこでアグリクラスター推進室というところを経て、医業推進室へ赴任いたしました。

この医業推進室は平成 27 年に医業支援部という部に昇格をして、今、業務を拡大しております。

そして、平成 26 年に、「Trovo-medical」というシステムをインビオという会社と一緒に共同開発をいたしました。このインビオと一緒に「Trovo-medical」というシステムを開発したのを境に、私の人生が大きく変わっていきます。

このインビオと一緒にサザンウィッシュという会社を設立したのですが、この設立と同時に、「おまえは東京に行ってシステムを売ってこい」という命令が出まして、平成 27 年に東京に駐在し、サザンウィッシュの営業支援を一緒にすることになりました。現在も、このシステム営業および広報活動しております。

平成 27 年に私事ながら結婚をし、相手が鹿児島の人であったため、鹿児島の医業支援部に戻って、鹿児島と東京を往復しながら仕事をやっているという状況です。

今まで講義をさせていただいたことが何回かありますけれども、今日は 90 分はさすがに長丁場ござい

まして、内容に一貫性のあるものなのかちょっとわかりかねるところではありますが、ぜひ気楽な気持ちで聞いていただき、また随時ご質問等があれば、今日は少人数でございますので、遠慮なくいろいろとお聞きください。

本日の講演を通じて伝えたいこと

- 「地銀」の概念に囚われないベンチャーイジムな実践
- 新技術を活用した取り組み
- 環境変化に挑み続ける

～お手柔らかにどうぞよろしくお願いします～

About me



入行11年目

■直近の経歴

平成24年 営業支援部配属
アグリクラスター推進室を経て
医業推進室へ（のちに医業支援部へ）

平成26年 医療・介護・保険薬局営業支援システム
「Trovo-medical」をインビオと共同開発

平成27年 株式会社サザンウィッシュ設立
設立と同時に東京駐在へ
以降システムソフト営業・広報を行う

平成28年 医業支援部（鹿児島）へ

2. IT ベンチャーを立ち上げる

Slide 6 About Southern Wish Inc.

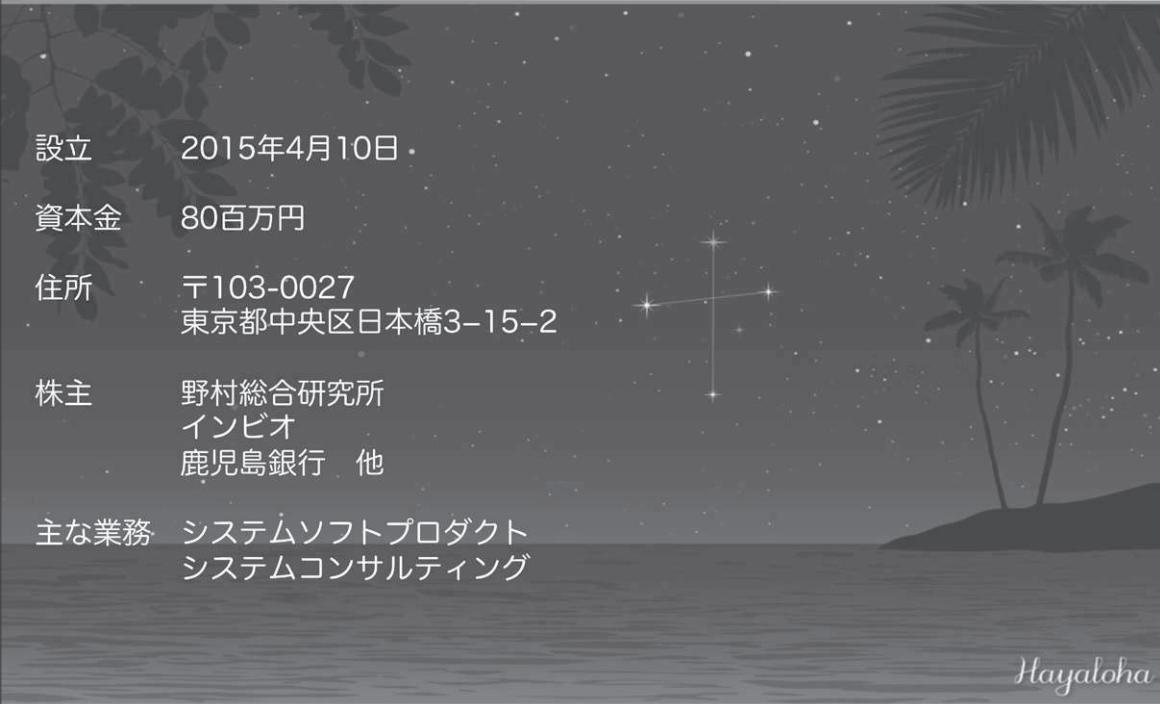
では、本題に入らせていただきます。

サザンウィッシュという会社をつくりました。つくったのが2015年、2年前の4月10日。資本金は8,000万円です。こちらの住所は鹿児島銀行の東京支店の住所で、弊行は自社ビルを持っておりますので、そこに1フロア借りて、サザンウィッシュが事務所を持っております。株主は野村総研、鹿児島銀行、そして東京のベンチャーでありましたベンダーのインビオという会社です。この株主比率ですが、野村総研が35%。インビオが35%。鹿児島銀行は、業法上の制限がありますので、5%。あとはファンド等、合わせて30%の構成となっております。

このサザンウィッシュという会社は、おもにシステムを実際につくり、そのシステムを通じたコンサルティングサービスを提供しております。

2. ITベンチャーを立ち上げる

About Southern Wish Inc.



設立	2015年4月10日
資本金	80百万円
住所	〒103-0027 東京都中央区日本橋3-15-2
株主	野村総合研究所 インビオ 鹿児島銀行 他
主な業務	システムソフトプロダクト システムコンサルティング

Hayaloha

Slide 7 SW 社設立に至るまで

このサザンウィッシュの設立をなぜしたのかということですが、その話は後々にするとしまして、このサザンウィッシュ設立に至るまでにどのような経緯があったかということです。2013年秋に、3社の代表——頭取、NRIの会長および社長、インビオの社長の3人が、「よし、新しい会社をつくろう」と決めてから、実際に担当の話合いが始まりました。

翌年の2月に、銀行の中の常務会およびNRIの経営会議にて無事決裁されまして、4月には設立になりました。

この話をいたしますと、他の銀行さん、およびベンダーさんも含めて、「ほんとに早いですね、こんな早い期間でなんでそこまでできたんですか」なんていうお話はよくいただくのですが、この3社が合意をして立ち上げたベンチャー、その背景とは何なのかということをございます。

Slide 8 3社の実情

それぞれの3社の実情がいろいろありまして、その背景をご説明させていただきたいと思っております。

まず、私ども鹿児島銀行です。

鹿児島銀行は、もともとシステムを自分たちでつくるといった文化がありました。ご存じない方もいらっしゃるかもしれませんが、KeyManという、企業審査と自己査定を一緒にやってしまう融資審査システムがあります。それを実際に自分たちでつくりあげて、今、私ども鹿児島銀行のほか、みちのく銀行さん、山梨中央銀行さん、十八銀行さんの4行で合同で運営をしている仕組みです。よってシステムをもともと自分たちでつくってしまうという企業文化がありました。ただ、業法の兼ね合いで、その仕組みを銀行以外のところに幅広く売るといったこと自体はできません。なので、その拡販自体が難しいという事情がありました。今でこそ、でございますが、やはりマイナス金利になりまして収益源が足りないということもあって、その販売手数料なんかは銀行の重要な今後の収益源になるだろう。そういった道をつくるには、銀行内としては難しいというのが、私ども鹿児島銀行の実情です。

続いて、野村総研さんです。

野村総研といえば、もう金融のなかでも証券のシステムについては確たる実績がある一方で、NRIさんとしては銀行の勘定系でしたり情報系の仕組みを今

後もつくっていききたい。ただ、証券のほうではいろいろなお取引があられると思いますけれども、金融機関との新たな取り組みというのがほしいというところのご要望があったようです。

そして、このインビオというベンチャーの会社です。

ここは何ともユニークな会社で、もともと月島のマンションで若いエンジニアをたくさん集めていろいろとやっていた会社で、私どもの頭取とインビオの社長が非常に懇意だったということも関係しているのですが、鹿児島銀行のサブシステムをいろいろ開発してもらっていた経緯がございました。そのなかで、かゆいところに手が届くような商品をつくってもらえるので、その開発力とか実行力などはお墨付きなのですが、ベンチャーでしたので、いかんせん人が少ない。なので、なかなかメンテナンスや運営体制は盤石かというところではない。ということで、開発力はあるものの、運営面でしたり、開発をさらに広げていくときに、若干の難点等もあったのが実情です。

それぞれが強みがある一方で、もちろん弱みも抱えていた。それを解決しようと考えたのがサザンウィッシュという器でした。